

# 令和6年度八万南小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
		評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見			
① 確かな学力の育成 ・ 聞く態度の育成 ・ 学習意欲の高揚 ・ ICT教育の推進 ・ 読書活動の推進 ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・ 自分の考えを伝え合う力の向上 ・ 家庭学習の習慣化 ・ 基礎・基本の徹底 ・ 個に応じた指導の充実	① 話を黙って最後まで聞ける態度を育成する ② 学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ主体的に学習に取り組むことができる態度を育成する。 「わかった」「できた」「もっとやりたい」等 ③ タブレット端末等を有効活用した学習の推進を図る。 ④ 思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を充実させる。 ⑤ 家庭学習（家庭との連携）なども含めた「学ぶ習慣づくり」を定着させる。 ⑥ T・T指導等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ⑦ 読書活動等を通して、感性を磨き、読解	<b>評価指数</b> ① 自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話をもっと聞いています。」85%以上 ② 自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。90%以上 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」85%以上 保護者アンケート「学校は、お子さんが意欲的に学習に取り組めるような工夫をしている。」80%以上 ③ 自己評価「タブレットを効果的に活用できる。」90%以上 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」85%以上 ④ 自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、友達の見聞を聞いたり、自分の考えや意見を伝えたりすることができている。」85%以上 ⑤ 自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習をしている。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」80%以上 ⑥ 自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」90%以上 ⑦ 自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、本が好きである。」80%以上	<b>評価指数の達成度</b> ① 自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」100% 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話をもっと聞いています。」94% ② 自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。97% 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」84% 保護者アンケート「学校は、お子さんが意欲的に学習に取り組めるような工夫をしている。」83% ③ 自己評価「タブレットを効果的に活用できる。」72% 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」84% ④ 自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。97% 児童アンケート「わたしは、友達の見聞を聞いたり、自分の考えや意見を伝えたりすることができている。」83% ⑤ 自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」93% 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習をしている。」89% 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」69% ⑥ 自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」97% ⑦ 自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」79% 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」71% 保護者アンケート「お子さんは、本が好きである。」49%	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b> (所見) ① 話の聞き方のルールを徹底して指導している。しかし、児童が学習内容を十分に習得できているとは言いがたい。 ② 子どもが主体的に学習に取り組むことができるように工夫しているが、子どもの学習内容の理解や意欲的な学習への工夫という面については課題が残る。 ③ タブレットを使って効果的な面も多くあるが、活用方法や実践の仕方については検討が必要である。 ④ 様々な学習形態を工夫して表現する場を設けているが、児童同士の伝え合う力の習得については課題が残る。 ⑤ 宿題への取り組みは概ねできているが、保護者の家庭学習に対する意識に差が見られる。 ⑥ 個々の特性にあった指導方法の工夫を進めているが、学習の内容理解の習得には課題が残る。 ⑦ 読書時間の確保や読み	① 児童の達成度から、真剣に向き合っている姿が確認できる。 ② 児童が自ら課題をつくったり、授業の内容をまとめて発表したりする時間を設けるなどがあるのもよいのではないかと。 ③ アナログからデジタル化の時代になり、子どもたちのタブレット活用で効果的な面も多くあると思われるが、活用方法・故障トラブル等の対応で教員の研修が必要になり負担が増えるのではないかと。 ④ 児童同士の伝え合う力の習得はとても大切である。その過程で考える力をはぐくむことに期待したい。 ⑤ 教育には学校だけでなく家庭教育も大切な要素である。家庭学習については、学校と家庭との連携が課題である。 ⑥ 教員の自己評価が高いところが気になる。本当にそれでいいのかという視点で、あらためて評価やできていない課題はないかを考えてほしい。 ⑦ 読書のよさに気付き、読書をして考え、言葉にする時間を設定することも考える必要があるのではないかと。読書時間の拡大を希望したい。国語の授業に図書室を使用するなど、本にふれる機会を増やしてみるのはどうだろうか。県市図書館から図書を借りることも検討してはどうか。家庭での読書は難しい。や	引き続き話の聞き方の指導を徹底し、全員が話をしっかりと聞き取ることができるように指導することが必要である。 ・ 児童の実態や学習の定着度をこまめに把握し、学習内容の定着が図れるように授業改善をする必要がある。 ・ タブレットの効果的な活用に向けて、研修を実施していく必要がある。 ・ 様々な学習形態における児童の活動の仕方や表現の仕方を具体的に提示する。 ・ 児童が意欲的に家庭学習に取り組んでいることを家庭でも点検や賞賛をしてもらえるように、家庭への啓発が必要である。 ・ 児童の読書の意欲が高まる	
		<b>活動計画</b> ① 聞き方のモデルを示し、ルールを徹底する。 ② 各授業における課題設定(めあて)や発問を工夫する。 ③ 効果的なタブレットの活用についての研修の実施と系統的な学びを実践する。 ④ 根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いた		<b>活動計画の実施状況</b> ① 聞き方のモデルを示し、ルールを徹底するための指導をした。 ② 児童が主体的に学習に取り組むことができるように、各授業における課題設定(めあて)や発問の工夫をした。 ③ 効果的なタブレットの活用についての研修の実施を行った。また授業の中で系統的な学びを意識して実践を行っている。 ④ 話型を示すことで、相手に伝わる話し方を意識させ			

力・表現力・創造力を高める。	り、表現したりする場面を設定する。 ④ 家庭学習の手引きに加え、学習の進め方のモデルや文例の提示等を行い、自主的・効果的な学びを推進する。 ⑥ 合理的配慮の実践等、個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ⑦ 読書への意欲付けを意識した読書活動や読み聞かせを実施する	た。学習形態を工夫し、様々な場面で自分の考えを表現できるように取り組んでいる。 ⑤ 家庭学習の手引きの見直しを行い、各学年の実態に合わせて、家庭学習や自主学習の進め方のモデルの提示を行った。 ⑥ 合理的配慮についての研修を実施し、教職員間で連携を図りながら指導の工夫に取り組んでいる。 ⑦ 朝の活動の時間や図書室の利用時間を設けて、読書時間を確保したり、読み聞かせを行ったりした。委員会を中心に、「読書郵便」や「読書まつり」を実施し、読書啓発を行った。また、児童が興味をもつ本を購入し、意欲が高まるようにした。	聞かせについて、より充実させるための工夫が必要である。	はり、学校での読み聞かせや朝の読書時間に期待したい。	ような活動を実践したり、家庭での読書時間の確保を啓発したりしていく必要がある。
----------------	---	--	-----------------------------	----------------------------	---

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画		学校関係者の意見		
2 豊かな心の育成 ・ いじめ撲滅のための早期発見・早期対応 ・ 人権教育・道徳教育の推進 ・ 自尊感情や自己肯定感を高める学級経営 ・ 自他の生命を大切にする態度の育成 ・ 互いを認め合う仲間づくり ・ 根気と忍耐力の育成	① いじめ撲滅のための早期発見・早期対応を心がける。 ② すべての教科等で人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。 ③ 「特別の教科道徳」の時間をはじめ、すべての教科等で道徳教育を展開し、よりよく生きていくための資質・能力を培う。 ④ 自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める学級経営を推進する。 ⑤ 自他の生命を大切にすることを育成する。 ⑥ 人の長所に目	<b>評価指標</b> ① 自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気付き、対応している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友だち、お家の人に相談できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」80%以上 ② -1 自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり、助けたりしている。」85%以上 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」80%以上 ② -2 自己評価「学年で協力して授業を考え、学年で統一した授業ができていく。」90%以上 ③ 自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができていく。」90%以上 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことは大切だと思う。」85%以上 ④ -1 自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」90%以上 児童アンケート「自分にはよいところがある。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを知っている。」80%以上 ④ -2 自己評価「児童をよくほめている。」90%以上 児童アンケート「先生や友だち、お家の人などから褒められる。」85%以上 ⑤ 自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画し	<b>評価指数の達成度</b> ① 自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気付き、対応している。」100% 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友だち、お家の人に相談できる。」82% 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」84% ② -1 自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」97% 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり、助けたりしている。」86% 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」86% 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」83% 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」90% ② -2 自己評価「学年で協力して授業を考え、学年で統一した授業ができていく。」96% ③ 自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができていく。」97% 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことは大切だと思う。」94% ④ -1 自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」93% 児童アンケート「自分にはよいところがある。」83% 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを知っている。」84% ④ -2 自己評価「児童をよくほめている。」93% 児童アンケート「先生や友だち、お家の人などから褒められる。」84% ⑤ 自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画し	<b>総合評定 (評定)</b> <b>B</b> ① 今後も取り組みを継続し、より児童が相談しやすい環境を作ることが責務である。 ② 今後も人権教育充実のために計画の見直しをし、内容の充実を図る。 ③ 児童が道徳の時間に学習したことの重要性を感じている。また、これからも一人一人に目を向けた指導を継続していく。 ④ 学校だけでなく、各家庭にも呼びかける必要がある。今後も保護者と密に連携をとることが大切である。 ⑤ 毎年計画を見直し、各学年の実態に応じた内容の学習を進める。命の大切さや人との関わりについて、積極的に外部講師を招く等、体験的に学ぶ機会を増やすことができないか、	① 現在もしっかり対応しており、保護者も納得する評価をもらえていることがうかがえる。 困ったことがあっても誰にも相談できない子どもがいる。学校にいじめ等困ったことを相談しても対応してくれないという保護者の評価は気がかりである。 ② こちらも今後さらによりよくなるように進めていってもらいたい。 ③ 道徳に関しては児童も大切さを感じていることはとてもよいことである。さらに、児童が考えることへとつながればよりよくなるのではないかと。 ④ 児童アンケートが少し低いが、想定よりは高い。これ以上は、本当に学校保護者の連携が重要となる。振り返る場や教員の声かけも実践された結果ではないか。児童の自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高められる場、振り返りの場を多く設けてはどうか。 ⑤ 指導後にアンケートを実施すれば、より実態を知ることができるのではないかと。 ⑥ 素晴らしい結果である。継続して行ってほしい。	注意深く児童と関わる機会を増やし、些細な変化を察知し、教職員、保護者、関係機関等、連携しながら早期発見・早期対応に努める。 研修などを取り入れ、教師の人権感覚をより一層磨くことが必要である。 すべての教育活動の中で人権尊重の精神を尊重できるように意識していく。 道徳の時間に考えたことや思ったことの進化を図り、生活に実践する力を高められるようにしていくことが大切である。

<p>を向け、互いを認め合い、支え合う仲間作りを継続的に行う。</p> <p>⑦ 何事にも最後までやりとげる掃除や当番・委員会活動、ボランティア活動等、根気と忍耐力を培う。</p>	<p>て、取り組むことができた。」90%以上          児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」85%以上          ⑥ 自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」90%以上          児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などを知っている。」85%以上          保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」80%以上          ⑦ -1 自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」90%以上          児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」85%以上          児童アンケート「学校や学級をよりよくするために、ボランティア活動やお手伝い等をしている。」85%以上          保護者アンケート「お子さんは、やるべき事を最後まで取り組むことができる。」80%以上          ⑦ -2 自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み、手本となっている。90%以上          ⑦ -3 自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」90%以上</p>	<p>て、取り組むことができた。」90%          児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」92%          ⑥ 自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」96%          児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などを知っている。」93%          保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」95%          ⑦ -1 自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」97%          児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」90%          児童アンケート「学校や学級をよりよくするために、ボランティア活動やお手伝い等をしている。」69%          保護者アンケート「お子さんは、やるべき事を最後まで取り組むことができる。」81%          ⑦ -2 自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み、手本となっている。93%          ⑦ -3 自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」93%</p>	<p>検討・実施を考えてみる⑦          ⑦ 今後も継続をして行う。          ⑦ ボランティア等に主体的に取り組んでいると感じる児童と教師の割合の差が大きい。より児童の評価が上がるように、教師の声かけが必要である。また、研修等で情報交換を行い、学校全体で取り組めるように工夫する。</p>	<p>主体的に行動できているかどうかの評価が教師と児童での大きい差は、重要な要素である。活動において、清掃や当番では、主体性を実感するというところまで至っていないのかもしれない。本年度は、文化祭等委員会活動では主体的に児童が動いていたと聞いているので、そうした活動の評価をしていくとちがった結果が得られたり、これからの改善につながったりするのではないかと。ボランティア活動の見え方を図るのはどうだろうか。各自の体験談を披露する場があるとよいかもれない。児童のボランティア活動の意識が低いのはなぜか。働きかけが足りないのか、認識不足で評価が低いのではないかと。学校、学級、家庭、地域のボランティア活動やお手伝いをして達成感、仲間がいることを感じてほしい。</p>	<p>引き続き、児童の自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高められるような場を設定し、声かけをし、励ますようにする。</p> <p>体験的な活動を通して、命や周りの人々を大切に育てる態度の育成をめざす。</p> <p>委員会活動等を生かし児童が主体となって取り組める方法を考えていく。</p>
	<p><b>活動計画</b></p> <p>① 年に2回アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>② 各学年の人権教育担当の教員中心に、人権教育年間計画にそった人権教育を進める。</p> <p>③ 各学年の道徳教育担当教員中心に、道徳の年間計画にそった道徳教育を進める。</p> <p>④ 集団の中で、「任せる、褒める、認める」場を設定する。また、活動を振り返る場も設定する。</p> <p>⑤ 各学年で「生命」の授業を実施し、生命を尊重する心を養う。</p> <p>⑥ 学年実態に応じた仲間作りの活動を設定している。</p> <p>⑦ 清掃活動や当番等の意義を知らせる。また、教師自らが行って見せたり、仕方を工夫して教えたりする。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① アンケートを実施し、いじめを早期発見し、対応することに努めた。必要に応じて会議を開き、情報の共有理解を図ることができた。</p> <p>② 各学年の人権教育担当教員を中心に人権教育を進めたが、児童の実態に応じて、計画を見直すことも必要である。</p> <p>③ 各学年の道徳教育担当教員を中心に道徳教育を進めることができた。</p> <p>④ 教育活動の中で児童の自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める場、また振り返る場を設定した。教員の価値づける声かけが重要である。</p> <p>⑤ 命の授業を計画し、各学年に応じた授業に取り組むことができた。</p> <p>⑥ 学習の場や学級で児童が互いに認め合い、支え合う仲間作りが行える場を工夫して設けることができた。</p> <p>⑦ 高学年がボランティアを毎日行った。また、一昨年度から委員会を中心に「ゴミゼロ 声ゼロ」の「ゼロゼロ そうじの日」を設け、ゴミゼロ、おしゃべりゼロで清掃活動が行えるように継続して働きかけている。全学年の児童の中に定着しつつあり、自ら考え行動する様子が増えてきた。</p>			
重点課題	重点目標	自己評価 評価指数と活動計画	評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策

3 健康な心と体の育成 ・ 体力の向上 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 家庭と連携した食育の推進 ・ 充実感や達成感の体感	① 運動の楽しさや面白さを感じることのできる体育授業を工夫する。 ② 外遊びを積極的に奨励する。 ③ 体育的行事への積極的な参加を呼びかける。 ④ 学校給食を中心に食育を推進し、健康の保持推進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 ⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底、生活習慣の育成を図る。 ⑥ 仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことのすばらしさを学び、最後までやり遂げる充実感や達成感を体感させる。	<b>評価指標</b> ① 自己評価「各学年の発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」90%以上 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」85%以上 保護者アンケート「お父さんは、体育の授業や運動することが好きである。」80%以上 ② 自己評価「外遊びをするように啓発している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」85%以上 保護者アンケート「お父さんは、外遊びをしている。」80%以上 ③ 自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」90%以上 ④ -1 自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」90%以上 ④ -2 自己評価「食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができる。」85%以上 保護者アンケート「お父さんは、食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をするすることができる。」80%以上 ⑤ -1 自己評価「『早寝・早起き』をするように啓発している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、早寝早起き・朝ごはんができています。」85%以上 保護者アンケート「お父さんは、基本的な生活習慣が身についている。」80%以上 ⑤ -2 自己評価「『朝ごはん』を食べるように啓発している。」90%以上 ⑥ 自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」90%以上	<b>評価指数の達成度</b> ① 自己評価「各学年の発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」97% 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」89% 保護者アンケート「お父さんは、体育の授業や運動することが好きである。」86% ② 自己評価「外遊びをするように啓発している。」83% 児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」76% 保護者アンケート「お父さんは、外遊びをしている。」74% ③ 自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」89% ④ -1 自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」90% ④ -2 自己評価「食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」86% 児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができる。」82% 保護者アンケート「お父さんは、食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をするすることができる。」78% ⑤ -1 自己評価「『早寝・早起き』をするように啓発している。」86% 児童アンケート「わたしは、早寝早起き・朝ごはんができています。」75% 保護者アンケート「お父さんは、基本的な生活習慣が身についている。」87% ⑤ -2 自己評価「『朝ごはん』を食べるように啓発している。」90% ⑥ 自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」97%	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b> ① 体育の授業が好きな児童は評価指標を上回る結果となっている。 ② 外遊びの啓発が十分でなかった。昨年度よりも達成度が低くなっており、外遊びをしていると感じられていない児童が約24%をしめている。 ③ 体育行事に参加する機会は増えた。教員も積極的に指導に関わっている。 ④ -1 食育授業を行った成果が出ている。 -2 完食を目指して残さず食べる児童や、苦手な食材にもチャレンジする児童が増えた。機会を捉え、継続指導する必要がある。 ⑤ -1 『早寝・早起き』と『朝ごはん』を一緒にしたので、結果が少し下回ったのかもしれない。が、基本的な生活習慣は身につけている。今後の課題として、校内の食育推進委員会等で共通理解を図り、引き続き取り組んでいく。 -2 目標は、達成されている。 ⑥ 無言清掃の日を設けたり係や当番の仕事の行	① 運動に関しては特に苦手意識のある児童もいると思う。これについては指標の向上のみをめざすのではなく、苦手意識のある児童と向き合うという視点も大切にしてもらいたい。 心身が気持ちよく感じる運動がよい。空き地がなくて子どもたちも遊ぶ広場がない。体育的授業はスポーツのプロの方から習うのもよいのではないかと。 ①と同様のことがいえると思う。 校内では外遊びする児童は多いような気がするが、放課後は外遊びする場所または友人が少ないのではないかと。 ③ 体育行事への参加については応援をするということもあると思う。仲間として、どう感じるのかということも評価できるといえるかもしれない。 ④ 食育についてはたくさんの課題があると感じている。感謝だけでなくバランス、正しい知識、楽しいと思えるかも重要。学校という限られた時間しか設定できないというのわかるが、落ち着いて、食べることを楽しいと感じる時間にもなればと思う。これは学校に限らず家庭でも大切。今後いろいろなと検討を進めていきたい。 ⑤ こちらについては家庭でのことが大きい。児童だけでなく家庭との連携が課題。早寝・早起き・朝ごはんの習慣化について、朝の活動内で早起きが実践できるような取組があるとよい。朝食抜きで登校する児童は皆無なのか。また、啓発し	来年度も引き続き、個々のめあてを設定し、楽しく授業を進められるように研修を行う。 ・ 外遊びに意欲がもてるような活動や声かけを行い、時間や場所の確保にも努める。声掛けを進める。 ・ 体育的行事の周知を徹底したり、壮行会などで参加児童の活躍の場を設定したりする。 ・ 常時、給食指導を行っていく。 ・ 食育推進委員会を中心となって、啓発を続ける。 ・ 総合学習や生活科の学習の時間と関連づけて、食に関わる人々の思いを学習したり、命を形作る存在としての食育を進めたりする必要がある。 ・ 無言清掃の日を引き続き設定する。今後は普段の清掃で
		<b>活動計画</b> ① 各運動領域の教材研究を行い、学年の発達段階に応じた体育授業の実践を行うためにメンター制をいかした研修を適宜行う。 ② 積極的に外遊びができるように声をかける。 ③ 体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促す。 ④ 児童の健康な心身の育成のため、生きた教材を生かした食に関する指導の充実を図る。	<b>活動計画の実施状況</b> ① 各運動領域の教材研究を行い、系統性を意識しながら、学年の発達段階に応じた体育授業の実践を行うためにメンター制をいかした研修を適宜行った。 ② 積極的に外遊びができるように声をかけるとともに、委員会を中心に呼びかけや啓発活動を行った。 ③ 体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促し、また4年生からも練習に参加することで、参加児童が増えた。 ④ 生活科や社会科の学習と関連づけながら指導を行った。また積極的に栄養教諭と連携して給食と関連付け			

	<p>食べ物を大事にし、感謝して食事ができるようにする。</p> <p>⑤ 保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起き朝ごはん」の意識づけを図る。 睡眠と食事の重要性について、教職員で共通理解を図る。</p> <p>⑥ 「ゴミ0 声0」の「0 0そうじの日」を設け、集中して無言清掃に取り組み、最後までやり遂げられるようにする。</p>	<p>た食の学習を行った。</p> <p>⑤ 保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起き朝ごはん」の意識づけを図った。</p> <p>⑥ 「ゼロゼロ0 0そうじの日」を設け、委員会を中心として啓発に取り組んだ。</p>	<p>う場の設定や指導の工夫をしっかりと行ったりし、きちんと行われた児童も多く見られる。</p>	<p>ているのか。 早寝・早起き・朝ごはんは、子どもたちに大切さを教えていただき、子どもたちが学んだことを家庭で保護者に伝える取組がなされるとよい。</p> <p>⑥ 充実感や達成感というのは、与えられた事柄に対してもあると思うが、自分で目標設定をしたからこそ得られるものもあるのではないかと。そのような主体性を発揮できる場面があれば、より実感できるようになるかもしれない。</p>	<p>も無言で清掃することができるようになっていく。</p>
--	--	---	--	---	--------------------------------

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見		
4. 個に応じた特別支援・教育と生徒指導 ・規律や規範意識の高揚 ・積極的で組織的な児童理解の推進 ・一人一人の実態に応じた指導の工夫 ・子どもたちの長所の伸長 ・校内支援委員会及び支援体制の充実 ・教職員の研修 ・保護者への啓発	① 子どもたちが学校で仲間とともに生き生きと楽しく学べるよう支援する。 ② 積極的で組織的な児童理解を推進する。 ③ 規律や規範意識(あいさつ・言葉遣い・無言清掃等)の高揚に努める。 ④ 一人一人のニーズに応じた指導支援をさらに工夫する。 ⑤ 特別支援学級と交流学級との連携を密にして子どもの居場所を確保	<p><b>評価指標</b></p> <p>① 自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、安心して楽しく学校生活を送っている。」85%以上 保護者アンケート「学校は個に応じた指導をしている。」80%以上</p> <p>② 自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」90%以上</p> <p>③ 自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、場に応じた正しい言葉遣いができる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることができる。」80%以上</p> <p>④ 自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」90%以上 保護者アンケート「お子さんは、自他の違いを理解し、認め合おうとしている。」80%以上</p> <p>⑤ 自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」90%以上</p> <p>⑥ -1 自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」90%以上 -2 自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者となつなく役割を果たしている。」90%以上</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>① 一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p>	<p><b>評価指数の達成度</b></p> <p>① 自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」93% 児童アンケート「わたしは、安心して楽しく学校生活を送っている。」87% 保護者アンケート「学校は個に応じた指導をしている。」76%</p> <p>② 自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」96%</p> <p>③ 自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」96% 児童アンケート「わたしは、場に応じた正しい言葉遣いができる。」86% 保護者アンケート「お子さんは、元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることができる。」90%</p> <p>④ 自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」97% 保護者アンケート「お子さんは、自他の違いを理解し、認め合おうとしている。」89%</p> <p>⑤ 自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」97%</p> <p>⑥ -1 自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」80% -2 自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者となつなく役割を果たしている。」90%</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 個々の特性を考慮しながら学習方法や指導方法を選び、教材を工夫しながら指導した。</p>	<p><b>総合評定</b> (評定) <b>B</b></p> <p>① 教員は楽しく生き生きと学べるように効果的な方法を工夫し、児童も楽しさを実感していた。保護者と連絡を密に取り、保護者のニーズに寄り添う必要がある。</p> <p>② 児童理解の会を設け、児童理解に努めることができた。</p> <p>③ 各種集会で呼びかけたり、教師が手本となるような行動を率先して行ったりした。日々の学習や、生活の中での機会を捉えて場に応じた正しい言葉遣いができるよう継続して取り組む必要がある。</p> <p>④ 個に応じた教材や指導方法の工夫について</p>	<p>① 保護者の評価が低いのは、この項目について十分に保護者に伝わっていないことが原因ではないか。PTAを含めて保護者との関係性をよりよくしていくことが課題。 保護者の求める「個に応じた指導」は難しい面があると思う。地域のボランティアなどに応援を要請することは難しいのを知りたい。</p> <p>② 児童理解の機会を設けたのはすばらしい。このことで改善できたことがあれば知りたい。</p> <p>③ こちらに関しては全体的に評価もよいようである。継続的に取り組んでほしい。</p> <p>④ 教師だけでなく児童みんなで取り組む関係性が自然とできるような雰囲気になればよい。</p> <p>⑤ しっかりと情報共有できているようである。引き続き取り組んでほしい。</p> <p>⑥ 総合評定では連携ができていたとあるが、教師の方の自己評価との差がある。この要因についてはもう少し</p>	<p>・ 継続して児童のニーズを把握し、効果的な指導法や学習方法を工夫していく。</p> <p>・ 保護者と連携を密にして願いやニーズを的確に捉え、指導に反映していく。また、学習の様子を連絡帳や学年便りを通して知らせていく。</p> <p>・ 交流学級への意義指導を計画して行い、互いに尊重し認め合う環境を整える。</p> <p>・ 特別支援コーディネーターの役割や校内支援委員会などの開催方法、</p>

<p>する。</p> <p>⑥ 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内体制のさらなる整備をすすめる。また、関係機関等との連携や保護者への啓発等も積極的に図る。</p>	<p>② 定期的に見童に関する情報交換の機会を設け、共通解を図る。</p> <p>③ 場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てるよう教師が手本を示す。</p> <p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p> <p>⑤ 効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p> <p>⑥ 教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>	<p>② 放課後の打ち合わせ時に児童に関する情報交換を行い、交流学級とも連携するようにした。</p> <p>③ 気持ちの良い挨拶や正しい言葉遣いについて、児童の発達段階に応じて身に付けられるように教師が手本を示したり、できている児童を称賛したりして、実践態度をのばすことができた。</p> <p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら「個別の指導計画」を基に児童の状況に合わせてながら実践した。</p> <p>⑤ 教師間で調整し、複数の教師で児童に関わるようにした。他の教師からの情報を活かし、児童の成長のために指導した。</p> <p>⑥ 必要に応じて教育相談を活用し、児童や保護者の悩み、不適応等への対処を進めた。外部機関とも連携し、課題解決を図った。</p>	<p>て、よく実践できていた。今後も道徳や人権の学習を通して、互いを尊重し認め合う心を醸成していく。</p> <p>⑤ 放課後の時間等を利用して、効果的に情報交換することができた。</p> <p>⑥ 特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーの活用について研修などで周知していく必要がある。外部の連携機関と連絡を取り、効果的な助言等を得ながら取り組むことができた。</p>	<p>確認をとったほうがよい。</p>	<p>外部機関との連携方法などを、研修等で周知する。</p> <p>特別支援学級と交流学級の担任間で連携を密にする。学年会に特別支援学級担任が参加し、情報交換する。家庭との連携を深め、信頼関係を築く。</p>
---	--	--	--	---------------------	--

重点課題		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>5 保護者・地域から信頼される学校</p> <p>・教育活動の公開や情報発信の積極的な推進</p> <p>・地域に根ざした教育活動の推進</p> <p>・子どもの安全安心確保と健全育成等の推進</p> <p>・コンプライアンスの推進</p>	<p>① 「学年だより」「学校だより」やマチコミ・HP等を通じて、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p>② 地域の「人・もの・こと」を活用する。</p> <p>③ 登下校の安全の見守りや防犯対策等、子どもたちの安心安全を第一に考えた取組を推進する。</p> <p>④ 避難訓練や安全点検・安全指導を適宜実施し、防災教</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>① 自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」90%以上 保護者アンケート「学校は「学年だより」やHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」80%以上</p> <p>② 自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」90%以上</p> <p>③ 自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」90%以上 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守り、地域の人にあいさつをしている。」85%以上 保護者アンケート「お父さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」80%以上</p> <p>④ 自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」90%以上 児童アンケート「災害が起こったときに、素早く、安全に避難する方法を知っている。」85%以上。 保護者アンケート「お父さんは、災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」80%以上</p> <p>⑤ 自己評価アンケート「法令順守できた。」80%以上</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。</p>	<p><b>評価指数の達成度</b></p> <p>① 自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」96% 保護者アンケート「学校は「学年だより」やHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」96%</p> <p>② 自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」93%</p> <p>③ 自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」97% 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守り、地域の人にあいさつをしている。」93%以上 保護者アンケート「お父さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」97%</p> <p>④ 自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」97% 児童アンケート「災害が起こったときに、素早く、安全に避難する方法を知っている。」90%以上 保護者アンケート「お父さんは、災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」83%</p> <p>⑤ 自己評価アンケート「法令順守できた。」100%</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 「学年だより」「学校だより」を毎月発行し、行事のお知らせや報告、学習の状況、生活の注意、持ち物の確認等を保護者に発信している。HPを活用し、行事や</p>	<p><b>総合評定</b> (評定) <b>B</b></p> <p>① 行事や学習活動に応じたHPを更新し、学校の活動が地域や保護者へ発信してきた。「学校だより」「学年だより」についても、学年に応じた内容を考え、発信できた。</p> <p>② 昨年度の実践を振り返りながら、昨年に準じて継続できる活動は実践できた。</p> <p>③ 発達段階に応じて登下校の安全を守る指導ができ、児童の意識も高まった。</p> <p>④ 様々な場合を想定した避難訓練が実施で</p>	<p>① HP マチコミは有効に活用されていた。HPの周知をもっと進めてもいいのではないかと。学校だよりを確認できるページがあってもよい。</p> <p>② この項目については、学校だけでは解決が難しい。理想としては、課題と感じていることを学校や保護者を含めた地域の方々と共有して解決に取り組めるようにすることである。この運営協議会で出た課題を実働していけるように進めていきたい。</p> <p>③ 登下校についてはスクールガード、保護者の連携がこれからの課題である。保護者の意識と地域住民の意識には、地域の交通ルールを守っている感覚の相違があると思う。各家庭に交</p>	<p>HPの更新頻度をさらに上げ、学校の様子を地域や保護者へ発信できるようにしていきたい。</p> <p>各学年の学習に応じて活動内容を精選し、ゲストティーチャーを効果的に活用できるように年度の始めに計画する必要がある。</p> <p>災害時の避難訓練等については、文化の森などの地域の避難施設との連携も図り、学校内の活動を</p>



<p>育・安全教育の徹底を図る。</p> <p>⑤ 多角的な観点から、コンプライアンス違反のリスク要因を解消するための研修と点検を強化し、全職員にコンプライアンスを浸透させる。</p>	<p>・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>各学年の様子などを頻繁に発信することができた。</p> <p>② 教科の担当や学年で特別教室や教材室を整理し、活用しやすくした。また、昨年の活動を振り返りながらゲストティーチャーを招いたり、文化の森を活用したりした。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」に交通指導を行った。安全な登校の指導を行い、危険事項など必要に応じて共通理解することができた。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施し、災害時の安全な行動を確認した。また、安全点検・安全指導を毎月1回実施した。コンプライアンス研修を適宜実施した。コンプライアンス違反がないか個々に点検・確認を適宜行った。</p>	<p>きた。また、総合学習の時間と関連づけて災害時の避難の仕方について理解が深まるように啓発できた。</p> <p>⑤ 打ち合わせや研修の時間や利用して適宜、コンプライアンス意識を高める取り組みができた。</p>	<p>きた。また、総合学習の時間と関連づけて災害時の避難の仕方について理解が深まるように啓発できた。</p> <p>⑤ 打ち合わせや研修の時間や利用して適宜、コンプライアンス意識を高める取り組みができた。</p>	<p>通ルールを指導（徹底）してもらえるよう、もう少し促す必要ありと思う。危ないと思うことが多い。登下校時のあいさつについては声掛けをしてもあいさつをする子が少ないと地域住民からよく聞く。先生また立哨ボランティア等の方にはあいさつをするようであるが。</p> <p>登下校の時、こちらからあいさつをすれば、あいさつをしてくれる。地域の人も登下校に外に出て、子どもたちを見守ってくれるようになればよいと思う。</p> <p>④ 学校・児童・保護者の減災の知識教育の場を設定してほしい。</p> <p>⑤ こちらについては SNS の問題も合わせて保護者と連携できる方法を検討してほしい。</p>	<p>計画していきたい。また、引き続き保護者や地域と連携を図れるようにしていきたい。</p> <p>引き続きコンプライアンス意識の向上を図る必要がある。また、年々、意識や知識を更新していくことは責務である。</p>
--	---	--	--	--	--	---

自 己 評 価

重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
<p>6 研修の充実と協働体制の強化</p> <p>・ 未来を見据えた広い視野の教育活動</p> <p>・ 教職員の力量形成</p> <p>・ 「チーム八南」で、補完・協働し合う体制の継続</p> <p>・ ワークライフバランスを考えた超過勤務時間の改善</p>	<p>① 一人一台タブレットを効果的に活用した授業づくりを工夫する。</p> <p>② 職務研修（ミドルリーダー研・フレッシュ研Ⅰ・Ⅱ）、学校訪問、メンター制等の研修を効果的に活用し、教職員のさらなる授業力の向上を図る。</p> <p>③ 「チームハ</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>① 自己評価「タブレットの効果的な活用方法を知っている。」90%以上</p> <p>② 自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」90%以上</p> <p>③ 自己評価「必要な情報を共有することができたか。」90%以上</p> <p>④ 自己評価「自分の時間」「ゆりの時間」を創造できたか。」90%以上</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>① 校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て、実践する。</p> <p>② メンター、メンティーとして、主体的に研修に参加する。</p> <p>③ 学年主任、管理職、各担当主任等と必要な情報の共有を行う。</p> <p>「報告・連絡・相談・確認」</p>	<p><b>評価指数の達成度</b></p> <p>① 自己評価「タブレットの効果的な活用方法を知っている。」86%</p> <p>② 自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」87%</p> <p>③ 自己評価「必要な情報を共有することができたか。」96%</p> <p>④ 自己評価「自分の時間」「ゆりの時間」を創造できたか。」69%</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる実践の共有を行った。</p> <p>④ 授業研修や教員同士での授業力の向上を目指して公開授業を行った。</p> <p>⑤ 同学年や異学年の教員同士での共通理解及び生徒指導担当や特別支援コーディネーター、管理職への相談等、連携を意識して教育活動に取り組むことができた。</p>	<p>総合評定 (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>① タブレットの効果的な活用法については、教職員間で知識に差が見られるため、研修等を繰り返し実施する必要があるのではないかと。</p> <p>② 教職員の研修に参加状況を見ると意識の差が見られたため、研修の実施方法についてよりよい方法を探っていく必要があるのではないかと。</p> <p>③ 現状維持に満足することなく、よりよい方法を探っていく必要</p>	<p>① タブレットについては、どのように活用するのがよいのかを考え、今の授業や学習の改善点に活用できるようにしてほしい。</p> <p>② 研修を受ける意義や目的を共有できる時間も重要である。</p> <p>③ ここについてはコミュニケーションや対話の質を上げていくしかない。</p> <p>④ これからの学校教育の課題はICT化やDXも含めて学校だけでなく保護者と地域が連携して学校の課題を解決していくことが重要になってくる。そのためにもCS（コミュニティ・スクール）を機能的に運営できる仕組みづくり</p> <p>・ 効果的なタブレットの活用方法について、教職員のスキルアップができるように研修を実施していく。</p> <p>・ 教職員の授業力の向上を目指すために、研修の実施方法について改善をしていく。</p> <p>・ さらによりよい組織を目指すため、「報告・連絡・相談・</p>

<p>南」で、補完・協働し合う体制を継続させ、組織での対応に努める。</p> <p>「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④ ワークライフバランスを考え、健康で楽しい働き方を工夫する。</p>	<p>④ 全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため、「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>⑥ 教育のDX化を目指し、ペーパーレス化や連絡アプリの活用、教育課程の工夫等、教員の働き方改革を進めることができた。しかし、教員の慢性的な人員不足により、各学級担任がゆとりをもった学級経営をすることは現時点では難しい状況にある。</p>	<p>④ があるのではないか。ペーパーレス化の徹底やさらなるICT化を進め、業務の精選を図る必要があるのではないかと。</p>	<p>が大切である。先生方の「ゆとりの時間」や「自分の時間」が創造できたか、創造できたなら、その質を向上していただきたいと思う。それが、結果的に毎日の授業や指導内容のクオリティが上がり、子どもたちのモチベーションUPにもつながると思う。先生の人員不足、新しい教育システム、子どもたちの変化などで学校は苦勞が多い。「自分の時間」「ゆとりの時間」実現されることを願う。</p>	<p>確認」に努め、チームとして課題に取り組みきたい。</p> <p>定数通りの教員の配置を要望し続けると共に、引き続き教育のDX化をめざした改善を図っていく。</p>
--	---	---	---	--	--

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった